

2017年度
農検3級

日本農業検定3級試験問題

全50問

試験時間40分

注意事項

監督者の指示があるまで、この問題を開いてはいけません。

空白ページ

空白ページ

問1

のうぎょうしゅうぎょうしゃ
農業就業者についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 農業のみに従事しているか、兼業よりも農業の労働日数が多い人のことをいう。
- ② 1990(平成2)年には482万人いたが、2016(平成28)年には200万人を割り、192万人台となった。
- ③ 農業就業者の年齢は、65歳以上が全体の65%以上を占めており、高齢化が進んでいる。
- ④ 新規就農者数は、2010(平成22)年以降は5万人台で推移していたが、国の支援制度も厚くなり、2015(平成27)年には10万人を超えた。

問2

のうさんぶつちやくばいじょ
「農産物直売所」についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 少量の農産物でも出荷できる。
- ② 全国で3万店舗を超え、2014(平成26)年度の年間総売り上げは9千億円を超えている。
- ③ 店頭で農家ならではの食べ方を紹介するなど、消費者との交流が生まれ、農家の活躍の場になっている。
- ④ 市場出荷が中心だった流通のしくみを大きく変え、地産地消の多品目販売の場になっている。

問3

次のA・B・Cは「田園回帰」について説明したものです。正しいものを全て選んでいるのは①～④のうちどれですか。

- A. 都市に住む若者を中心に、農村への関心を高め新たな生活スタイルを求める動きのこと。
- B. 定年退職を契機として農村への定住志向が高まっていること。
- C. 自然豊かで魅力的な子育て環境をつくる取り組みが、若い女性の移住を増やしている町がある。

- ① A・B・C
- ② A・B
- ③ B・C
- ④ A・C

問4

耕作放棄地こうさくほうきちについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 耕作放棄地とは、過去2年以上の間、作物が栽培されず、今後も耕作に使う意思のない土地をいう。
- ② 2015(平成27)年の耕作放棄地の総面積は、日本の全農地面積ぜんのうちめんせきの2割を超えている。
- ③ 耕作放棄地が増加している原因の一つに、農家の高齢化・労働力の不足があげられている。

問5

消費者と農家とのつながりについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 農山漁村の「新鮮な農産物」や「豊かな自然環境」などに魅力を感じ、農業体験や農家民宿などを希望する都市住民が増えている。
- ② 農業・農村いやの癒しや農作業の健康増進などの効果に着目した余暇活動よかかつどうを、ハード・ツーリズムとよび、農村と都市をつなぐ役割を担っている。
- ③ 畑に何が育ち、何がおいしいかの情報を消費者に向けて、インターネットなどで日々発信している農家が増えている。

問6

次のA・B・Cは農業・農村のたいせつな役割についての説明です。正しいものを全て選んでいるのは①～④のうちどれですか。

- A. 農業の基本的な役割は、私たちのいのちを支える食料生産にある。
- B. 農業・農村かんとくほぜんきのうの環境保全機能の中に、田畑がいろいろな生物を育てている「生物多様性の保全」機能がある。
- C. 新潟県佐渡市では自然環境を保全しながら生きものを育む農法に取り組み、「トキと共生する佐渡の里山」が2011(平成23)年に世界農業遺産として認定された。

- ① A・B
- ② A・C
- ③ B・C
- ④ A・B・C

問7

地球温暖化についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 地球温暖化とは気温や海水温が地球規模で長期間上昇する現象である。
- ② 地球温暖化のおもな原因は、火山などから発生する過剰な温室効果ガスである。
- ③ アメリカ航空宇宙局を含む研究グループは、1992(平成4)年から2015(平成27)年までの間に海面水位が世界平均で8cm上昇したと発表した。
- ④ 太平洋の島国であるツバルでは、国土の水没への危険が高まっている。

問8

温暖化による日本農業への影響として、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 冬に減少していた害虫が越冬することが心配されている。
- ② いもち病の激発地帯が南に移動している。
- ③ イネに白未熟粒が発生している。
- ④ 果実の果皮に着色不良が報告されている。

問9

生物多様性についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 同じ種でも個々の性質や形には微妙な違いがあること。
- ② 自然環境の中でいろいろな動植物がかかわりあって生きていること。
- ③ いろいろな動植物が数多くいること。
- ④ 同じ種類の動植物の個体が数多くいること。

問10

フード・マイレージについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① イギリスのフード・マイルズ運動を参考に農水省が作成した食料生産による環境負荷の指標である。
- ② 食料の輸送手段が異なっても、重量、移動距離が同じならば、環境負荷は同じである。
- ③ 輸送する食料の重量に輸送した移動距離を掛けたもので、食料輸送による環境負荷を示したものである。

問11 ヒートアイランド現象についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 緑地や水面の減少が原因している。
- ② 大気汚染物質の増加によって起こる。
- ③ 地球温暖化による海水温度の上昇が原因している。

問12 地産地消についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 廃材やゴミ、家畜の排せつ物から取り出したメタンガスを使ったバイオマス発電は地産地消の一つである。
- ② 農業用水や小川の流れを利用する小水力発電は地産地消の一つである。
- ③ 地元の環境で生産されたものを地元で消費することを地産地消という。
- ④ 地産地消を活発にすると、地域内のエネルギー消費が増大し地域環境が悪化する。

問13 五大栄養素についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 炭水化物は糖質と無機質の総称である。
- ② 脂質は1gで4kcalのエネルギーを出す。
- ③ たんぱく質は1gで9kcalのエネルギーを出す。
- ④ ビタミンは栄養素の代謝を助け、体の各機能を調節する。

問14 人が生きていく上で大切なエネルギーの説明として、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 安静な状態で生命活動に使われる必要最小限のエネルギーの代謝量を基礎代謝量という。
- ② 基礎代謝量は年齢が上がるにつれて増えてくる。
- ③ 運動や毎日の活動で使われるエネルギーを摂取エネルギーという。

問15 消費期限の説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 品質が保たれ、おいしく食べられる期限のことをいう。
- ② 安全に食べられる期限のことをいい、品質の劣化が比較的遅い食品に表示される。
- ③ 開封しない状態で保存した場合の安全に食べられる期限のことをいう。
- ④ 開封した状態でも安全に食べられる期限のことをいう。

問16 JAS規格の説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 日本安全食品規格と呼ばれ、安全規格に適合していると判定された飲食料品にJASマークが表示される。
- ② 日本健康食品規格と呼ばれ、規格に適合していると判定された飲食料品にJASマークが表示される。
- ③ 日本農林規格と呼ばれ、規格に適合していると判定された飲食料品や林産品にJASマークが表示される。

問17 食中毒についての説明で、間違っているものは、次のうちどれですか。

- ① 腸炎ビブリオは食中毒の原因となる細菌である。
- ② 食中毒を引き起こす細菌は冷凍庫に2時間入れて置くことによって、^{しめつ}死滅させることができる。
- ③ 肉や魚による食中毒を予防するためには、内部までしっかりと加熱することが重要である。
- ④ 食中毒を予防するための3原則は細菌を“つけない”“増やさない”“殺す”ことである。

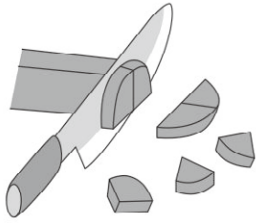
問18 生産・加工・流通の段階を通じて食品の移動状況が^{はあく}把握できるシステムとして、正しいものは次のうちどれですか。

- ① フード・マイレージ
- ② トレーサビリティ
- ③ フード・アクション

問19 次の食品の組み合わせのうち、^{はっこう}発酵食品が2つ以上含まれているものはどれですか。

- ① しょうゆ、砂糖、塩
- ② みそ、納豆、豆腐
- ③ くさや、牛乳、かぼちゃ
- ④ かつおぶし、鶏肉、こんぶ

問20 図で示した野菜の切り方で、正しいものは次のうちどれですか。



- ① いちょう切り
- ② 輪切り
- ③ 半月切り
- ④ くし形切り

問21 はつが 発芽の3要素についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 発芽の3要素は、肥料(栄養)と空気(酸素)と水である。
- ② 乾燥している種子は、吸水することによって発芽の活動を始める
- ③ 種子の発芽適温は野菜の種類で違い、キュウリやカボチャの発芽適温は15~20℃である。

問22 種子の発芽と光の関係についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 種子には光が当たったほうが発芽しやすい好光性種子と、光が当たると発芽が抑えられる嫌光性種子がある。
- ② カボチャは好光性種子で、レタスは嫌光性種子である。
- ③ 好光性種子をまいたときは、覆土をしないか、種子が雨で流されたり風で飛ばされたりしない程度にごく薄く掛ける。

問23 日照(日当たり)への適応性(好み)と野菜の組み合わせが正しいものは次のうちどれですか。

- ① 日当たりを好み、日陰では健全に育たない陽生植物……トマト
- ② 日照不足でも、曇り続きでもそれほど生育が停滞しない半陰生植物…サツマイモ
- ③ 半日陰から日陰を好み、日照量の少ない場所でよく生育する陰生植物…トウモロコシ

問24 光合成作用についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 光合成は動物にはできない働きである。
- ② 光合成は光のエネルギーを使って、根から吸収された二酸化炭素と水を原料にデンプンや糖などの炭水化物をつくる働きである。
- ③ 光合成は細胞の中の葉緑体で行われている。

問25 植物の呼吸作用についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 呼吸は、体内に酸素を取り込み、炭水化物を分解し、体の維持と成長に必要な「生命活動エネルギー」をつくり出す作用である。
- ② 光が当たっている昼間は光合成と呼吸の両方が行われている。
- ③ 夜間は光合成活動がなく、呼吸も休止している。

問26 気孔とその働きについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 気孔はおもに葉の表にある小さな組織で、1対の孔辺細胞^{こうへんさいぼう}でできている。
- ② 光合成を行なうときの酸素の取り入れと二酸化炭素の放出口となっている。
- ③ 呼吸作用を行なうときに二酸化炭素の取り入れと酸素の放出口となっている。
- ④ 蒸散作用を行なうときの水分の出口となっている。

問27 肥料の3要素についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 窒素^{ちっそ}は葉や茎の生育に役立ち、多過ぎると徒長^{とちよう}して軟弱になる。
- ② カリウムは開花^{けっしつ}や結実を良くし、新根の発育にも働いている。
- ③ リン酸は根や茎を強くし、不足すると病害虫への抵抗力が低下する。

問28 有機質肥料^{ゆうきしつひりょう}についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 有機質肥料とは、生物(植物や動物)由来の有機物質からつくられる肥料のことである。
- ② 油かすは、植物性窒素主体^{かんこうせい}の緩効性(ゆっくり効く)肥料である。
- ③ 骨粉^{こつぶん}は、リン酸が豊富で、米ぬかとともに速効性^{そくこうせい}のリン酸肥料である。
- ④ 草木灰^{そうもくばい}は、代表的なカリ肥料である。

問29

作物栽培にかかわる土壌酸度(pH)の説明として、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 多くの作物の生育に適した土壌のpH値は、5.5～6.5のアルカリ性といわれている。
- ② ホウレンソウはpH値の高い土壌を好み、サツマイモはpH値の低い土壌でよく育つ。
- ③ 土壌のpH値が高い場合は、石灰(カルシウム)をまいて調整する。
- ④ 土壌の酸度調整には有機質の苦土石灰がよく使われる。

問30

野菜の病気の予防対策として、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 水はけをよくすること。
- ② 日当たり、風通しをよくすること。
- ③ 生育を促すために窒素肥料を多く施すこと。
- ④ 肥料切れを起こさないようにすること。

問31

プランター栽培の用土の条件として、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 水はけが良いこと。
- ② 通気性がよいこと。
- ③ 適度な保水性、保肥力があること。
- ④ 有機物を多く含み単粒構造であること。

問32

果菜の原産地と好適環境についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① ナスはアフリカ原産で、高温を好む。
- ② キュウリはヒマラヤ山麓が原産とされ、夏でも比較的涼しい気候を好む。
- ③ トマトは北アメリカ原産で、強い光を好む。
- ④ イネは日本原産で十分な日光を必要とする。

問33

害虫についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① ヨトウムシはヨトウガの幼虫で、老齢幼虫になると夜は土にもぐり、日中に地上に出てきて野菜の葉や果実を食害する。
- ② アブラムシは食害性の害虫で植物に寄生するウイルスを媒介する。
- ③ ウリハムシはトマトやナスに来る吸汁性の害虫である。
- ④ ナナホシテントウはアブラムシの天敵である。

問34 イネの種もみについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 種もみの中には、発芽する際に必要なエネルギーが、おもにブドウ糖の形で蓄えられている。
- ② 塩水中で沈む、比重の重い種もみが良い種もみである。
- ③ イネの芽出しに必要となる積算水温^{せきさんすいおん}の目安は10～15℃である。

問35 バケツイネ栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 種まきの際には、水を入れて土をやわらかくしておく。
- ② 葉が4～5枚に増えたら、茎の太い良い苗を3～4本あわせて移植する。
- ③ 移植から10日ほどで分げつが始まり、約2カ月間続く。
- ④ 中干し^{なかほ}の作業では、土の表面がうっすらと湿っているときに再び水を張る。

問36 カブの品種と分類についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① カブの原産地は、中央アジア・アフガニスタンである。
- ② 食用部位の直径が5～6cmになったものを中カブという。
- ③ 赤カブは山形県の「温海かぶ^{あつみ}」など東北の一部の地方でしか生産されていない。

問37 カブの栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 種まき後は、種子^{かんすい}が流れないように灌水は控えるとよい。
- ② 1回目の間引きでは、子葉^{しよう}がきれいなハート形となっている株を残すとよい。
- ③ 裂根^{れっこん}はカビによって引き起こされる病気である。

問38 コマツナの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 冬まきは低温でも生育が旺盛^{おうせい}な品種、夏まきは耐暑性^{たいしよ}がある品種を選ぶ。
- ② 防虫ネットや不織布^{ふしよくふ}を張って栽培するときは、換気のため裾^{すそ}を2～3cm上げておく。
- ③ 間引きの際には、ほかの苗を傷めないようにハサミを使うとよい。
- ④ 本葉が7～8枚で草丈^{くさたけ}が15～25cmになったら収穫の目安である。

問39 コマツナの生産と流通についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① コマツナのおもな生産地は、大消費地近郊に集中している。
- ② 品質保持のために、収穫時と同じ温度を保ったまま流通させている。
- ③ コマツナの2015(平成27)年の生産量上位3県は全て関東地方である。

問40 シソの種類と利用法についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 葉が緑色の「青シソ」は、薬味として生食や天ぷらなどに利用される。
- ② 葉が赤紫色の「赤シソ」は、梅干しの色づけやジュースなどの加工品に利用される。
- ③ 青シソの葉は「大葉」とも呼ばれており、周年で流通している。
- ④ 穂シソは花軸のつぼみが30～50%ほど開花した頃収穫したもので、刺身のつまなどに使われる。

問41 シソの栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 柔らかな葉を育てるには日当たりのよい場所を選んで植えるとよい。
- ② 嫌光性種子なので、覆土は厚めに行なう。
- ③ 草丈が15～20cmの頃に摘しんすると、わき芽が増え、葉の数が多くなる。
- ④ 乾燥した土を好むので、灌水を控えめに育てる。

問42 結球レタスについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 結球レタスは、ほかのタイプのレタスと比べて輸送がしやすい。
- ② 生育が進むにつれて外側の葉(外葉)が発達していく。
- ③ 結球に使われる養分は、外葉の光合成によって供給される。
- ④ 種まき後40～50日頃に、外葉が丸くて幅の広い結球葉に変わり始める。

問43 レタスの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① レタスは低温に反応して花芽分化するので、9月下旬以降の栽培は避けたほうがよい。
- ② 種子は発芽しやすいように、一昼夜、水につけておくとよい。
- ③ 発芽に光が必要なので、種まき後にかぶせる土は薄くする。
- ④ 乾燥すると品質が低下するので、夏場は1日2回を目安に灌水する。

問44 イチゴのランナーについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① イチゴはランナーと呼ばれる特殊な根で、子株を増やすことができる。
- ② 販売されている苗についている長いランナーは、親株から伸びてきたものである。
- ③ 子株につく花は、親株から来ているランナーと同じ向きにつく。
- ④ ランナーで増やした子株からは、もう一度新しいランナーを伸ばして株を増やすことはできない。

問45 イチゴの花芽と果実についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① イチゴの花には中央に1つの雌しべがつき、その周りにたくさんの雄しべがつく。
- ② イチゴは、クラウンにある芽が低温と短日にあうことで、花芽に分化する。
- ③ イチゴの果実は、雌しべの下にある花床と呼ばれる部分が肥大したものである。

問46 エダマメの栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 直まきで育てる場合、子葉が開き始めたら間引きをするとよい。
- ② 追肥では、窒素分の多い肥料を液肥にして施すとよい。
- ③ 摘しんするとわき芽の成長も止まり、収穫量が減少する。
- ④ プランター栽培の場合は増し土をすることによって、土のかかった根元の茎からも根が出て養分を吸収する。

問47 エダマメと根粒菌との共生についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① エダマメの根にある小さなコブは根粒と呼ばれ、この中に根粒菌が住み着いている。
- ② 根粒菌は酸素の少ない環境を好む。
- ③ 根粒菌は空気中の窒素を取り入れて、エダマメが利用できる形に変えて供給している。
- ④ エダマメは、光合成でつくった炭水化物を根粒菌に供給している。

問48 スプラウトについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① スプラウトは植物の新芽のことで、発芽野菜とも呼ばれる。
- ② カイワレダイコンは、ダイコンの種子を発芽させたスプラウトである。
- ③ スプラウト専用の種子はスプラウトに病害虫が付かないように殺菌剤や忌避剤などで薬剤処理した種子を使う。

問49

トウモロコシの栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 発芽に必要な栄養分は種子には含まれていないので、肥料を充分に与えることが必要である。
- ② トウモロコシは灌水などの管理を続けると、2回程度は収穫できる。
- ③ トウモロコシは、ダイズをスプラウトとして栽培したものである。

問50

エダマメについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 酸性土壌には比較的強い。
- ② 耐暑性、耐寒性ともに強く、周年で栽培できる。
- ③ 半日陰となっている場所を選んで植えるとよい。
- ④ 開花期は乾燥した状態で育てる。

日本農業検定